慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	佛人の見たる福澤先生(二)
Sub Title	
Author	松本, 信廣(Matsumoto, Nobuhiro)
Publisher	三田史学会
Publication year	1934
Jtitle	史学 Vol.13, No.4 (1934. 12) ,p.50(632)- 50(632)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	餘白錄
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19341200-0050

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

佛人の見たる福澤先生（二）

勿論此の現實に卽した實際的の人物を深奥な思索家として考へてはならぬ。彼は形而上的な思辨に對し風馬牛であると等しく、既成宗教に對し劣らず懷疑的であつた。彼は常に現實に卽し、直接の行動と關係なき限り考へをたてず、要するに理想と高邁さなく、嚴密に特種な國土と特種な時代の要求に適合した極めて現實的な、狹義の實利主義を主張した人物に外ならぬ。然し乍ら福澤はその著述家としての才能は論ずる迄もなしとして、卓越せし「（時代の）代表人」であり、その重要さは哲學的部類よりも寧ろ歷史的部類に屬してをる。これがその最も重要な著述、「西洋事情」（一八六六―一八六九）、「福翁百話」（一八九七）、「福翁自傳」（一八九九）が日本出版史に於て未曾有の成功を收めた所以を說明し、また「修身要領」に對する興味を理解せしめる。修身要領は二十九條より成る道德典で（宮森氏の著書一二八頁を見よ）、福澤が一九〇〇年にその弟子の若干と共力編纂し、彼の創立せし有名な學校、慶應義塾の教師や學生に對し堂々發表し、次いでその新聞、時事新報に印刷せしめた所のものにかゝる。修身要領は啻に福澤の哲學的遺書たるのみならず、その狹隘なる實際主義（ポジチヴィズム）と覇氣滿々たる大志、狷介なる個人主義と高揚せる愛國主義・民主的の渴望と皇室に對する忠誠の念の奇妙なる混合が認められる點に於て殆ど近世日本の信念の表白と考へて差支へない稀有の資料である。

此處に吾人が發刊を告ぐる小傳は、「三田の聖人」の逝去の直後に（福澤は一九〇一年二月に逝く）慶應義塾の一生に依り記され、少しく辯疏（アポロジイ）と弔辭の調子を帶びて來るが、門弟の敬虔の至情のほどばしる所として納得出來る。福澤主義と呼ぶ所のもの、及びその功業の影響範圍に就いての全體的の批判的考察は尙將來筆を改めて書かれねばならぬ。然し斯くも努力的な、斯くも活動的な、斯くも充實した生涯の物語は、大なる興味を以て讀まれざるを得ない。そして宮森氏の明瞭な巧妙な敍述に依つて福澤の稀代の大人格は全く強く浮出してをる。宮森氏は主として「福翁自傳」を材料としてをる。日本文學中に於て最も興味ある著書の一つと具眼者に認定されてをる此の「自傳」が、不日立派に譯出されんことが期待に堪えぬ云々」。

卽ち福澤先生誕生百年祭を祝ふた本年に本塾教員淸岡暎一氏に依つて始めて英譯出版された「福翁自傳」は實に今より三十二年前明治卅五年以來メートル氏によつてその飜譯が待望せられてゐたものである。（松本信廣）